

<賀茂川・鴨川河川構造物群>

◇諸元等¹⁾

所在地：京都市北区、左京区、東山区、上京区

河川名：一級河川 鴨川

注：河川法上は「賀茂川」も「鴨川」と表記される

対象：終野堰堤から七条大橋付近までの

「床止堰堤」及び「みそそぎ川」の構造物

竣工年：1947年（昭和22年）ただし、左岸の
七条大橋から三条大橋間（約2.3km）



写真1 終野堰堤

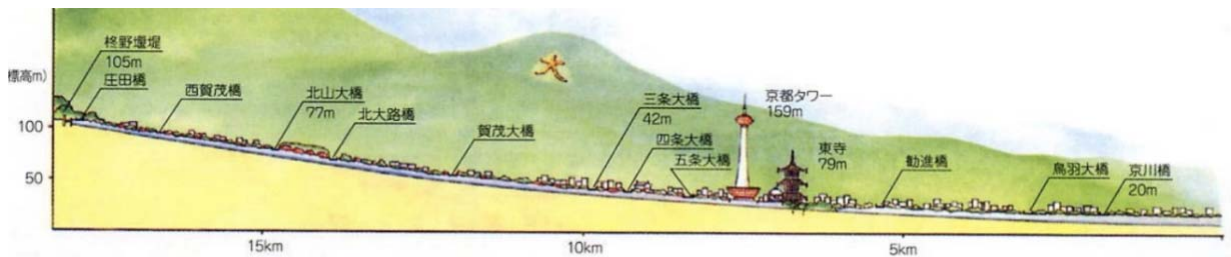
◇流域及び河道¹⁾

鴨川はその源を棧敷ヶ岳に発し、鞍馬川、高野川、白川などの支川を合わせて、京都市の北東部を北から南に流下し、南区に入り流路を西南に変え、伏見区下鳥羽において桂川に注ぐ、幹線延長23km、流域面積210km²の一級河川である。

河床勾配は、上流部1/100、中流部1/350、下流部1/600と都市河川としては急峻な流れである。そのため、河道内には河床の安定を図る目的で落差工や帯工などの床止工が数多く設置されている。また、中流部は丸みを持たせた石積護岸を連続的に配した直線的な堀込河川で、高水敷には公園整備が図られるなど、水と緑のオープンスペースとなっている。



写真2 春の賀茂川



鴨川の縦断概略図¹⁾

◇歴史・文化¹⁾

鴨川は平安時代には四神相応の地相でいう「東の青龍」にあたる重要な川と位置付けられ、神聖な川として尊ばれ、その水は禊（みそぎ）など宗教的儀式として重宝されてきた。また、鴨川の水や伏流水は、生活用水や灌漑用水として人々の暮らしを支えるとともに、京都の水文化を発展させてきた。

河原は街中における数少ない広い空間を有することから、商店や芝居小屋が建ち並び、多くの人々で賑わってきた。また、都市の広場の役割を果たすとともに、善阿弥の庭園芸術、観阿弥・世阿弥親子の「能」、出雲阿国の「歌舞伎」などの文化を生み出した。

5月から9月にかけて二条大橋から五条大橋の鴨川西岸の料理店には、河原に張り出した木組みの納涼床が設けられており、京都の夏の風物詩として全国的に有名である。



写真3 納涼床

◇洪水と治水事業¹⁾

昭和10年6月29日に未曾有の大水害が発生し、鴨川沿川では死者12名、浸水家屋約2万4千棟、橋梁32橋が流出した。この水害を契機に鴨川における近代治水が始まり、翌年の昭和11年から昭和22年にかけて、鴨川の約17.9kmと高野川の約5.2kmの改修が行われ、現在の鴨川がほぼ形づくられた。この昭和の大改修での計画流量は荒神橋地点580m³/sであったが、平成22年に策定された「鴨川河川整備計画」での整備目標は、概ね30年に1回起こり得る降雨による洪水を想定し、計画流量を荒神橋地点1,000m³/sに変更している。

◇賀茂川・鴨川の河川構造物³⁾

河川構造物のひとつである床止工は、河床の洗掘を防いで河川の勾配を安定させるために、河川を横断して設けられる施設である。床止めに落差が無いか或いは極めて落差の小さい施設を「帯工」と呼び、落差がある施設を「落差工」と呼ぶ。

賀茂川・鴨川と高野川には「飛び石」があり、この「飛び石」は河床の安定を図ることを主目的にしているため、河川構造物の分類では床止工の「帯工」に分類される。川底にはいろいろな形のコンクリートブロックが配置されており、平常時には人が渡ることができる二次的な役割も果たしている。この「飛び石」は今から30年前に河川環境整備の一環として親水機能を併せ持つものとして京都府河川課によって設置された。



写真4 北山大橋上流の落差工²⁾



写真5 賀茂大橋上流の飛び石

◇みそそぎ川の河川構造物

昭和の大改修では鴨川の低水路は大きく掘り下げられたが、兩岸の河床部は現在の高水敷として残された。丸太町から五条までの西側にあった川の流れが「みそそぎ川」と名づけられ、現在の納涼床の木組みの足元を流れている。この地区は古くより「禊の場」として京都市民に利用されるとともに、国内外からの観光客の散策コースとなっているため、河川構造物には自然石を使用するとともに護岸の肩を丸め、周辺の景観との調和に配慮されている。



写真6 みそそぎ川の河川構造物

◇土木学会選奨土木遺産認定²⁾

賀茂川と鴨川の河川構造物群は、戦前より景観に配慮した設計が行なわれ、我が国有数の河川景観と親水空間創出に貢献した貴重な土木遺産として2019年（令和元年）に土木学会選奨土木遺産に認定された。



◇参考文献

- 1) 京都府：鴨川河川整備計画, 2010.1.
<https://www.pref.kyoto.jp/kamogawa/documents/1263367156617.pdf>
- 2) 土木学会：土木学会選奨土木遺産, 賀茂川・鴨川河川構造物群, 2019.
<https://committees.jsce.or.jp/heritage/node/1060>
- 3) 京都府：鴨川真発見記, 第30号, 鴨川・高野川の飛び石, 2012.7.5.
<https://www.pref.kyoto.jp/kyotodoboku/1330410736400.html>